

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

| | |
|---------------|--|
| 事業名 | ナナイロ会議プロジェクト事業 |
| 事業主体 (連絡先) | ナナイロ会議実行委員会 長野県松本市大手1-3-29 丸今ビル1F |
| 事業区分 | (1)地域協働の推進に関する事業 (3)保健、医療、福祉の充実に関する事業 |
| 事業タイプ | ソフト |
| 総事業費 | 1,967,000円 (うち支援金: 1,485,000円) |

事業内容

本事業は松本地域を中心に街中アート（6箇所）を11月19日～25日まで1週間開催。（中央図書館は1ヶ月）街中に障がいがある人のアート作品を展示することにより、日常で障がいや多様性について知る、考える、対話する接点となる場づくりからキュレーターや高校生や大学生と行った。

またキックオフイベント「多様な人が集まる場づくりとは」のトークセッション（3人）世代別（シニア世代、働く世代、若者世代）に分けた対話型ワークショップナナイロ会議をファシリテーターの元11月19日20日10:00-16:00と2日間に渡って開催した。（多様なゲストスピーカー2名×3回＝6名参加）定員各20名の所多くの方に参加して頂いた。



【アートの場づくりの場の様子】

【目標・ねらい】

- ①多様性や障がいについて対話する場づくり
- ②アート展参加者総数約62,800人
- ③世代別で様々な対話がおき意見が聞けた。
- ④SNS上で障がいがある方でも参加可能なアート展

事業効果

- ①アート展来場者数は会場62,800人（信毎メディアガーデン約9,300人、マツモトアートセンター約9,300人、ギャラリーノイエ約200人、松本市中央図書館約33,600人、松本市中央公民館約33,600人、八十二銀行ウィンドウギャラリー約33,600人）で想定よりも多くの方が参加してくれた
- ②世代別ナナイロ会議は総数65名（定員各20名）キックオフイベント21名、シニア世代4名、働く世代22名、若者世代18名でシニア世代の参加が少なかった。
- ③SNS配信はSNSエンゲージメント数 - オンライン表示総数54,700
Twitter- インプレッション31,086・いいね686・エンゲージメント率5.3%
Instagram- インプレッション1,797・SNS
上での発信を積極的に行った。
- ④フリーペーパー作成発行 多様性について思う街の人の声や、福祉現場の声などを載せたB5サイズ20ページにわたるフリーペーパーを作成、0.4万部発行。

※自己評価【A】

【理由】

全体的に想定していたよりも参加人数が多かった事、安心安全な場であれば当事者との対話も起こりやすかった。若い世代の発信力や日常の中のアートがある事によって、多様な世代を巻き込み事ができたが課題としシニア世代をもう少し参加できる様にしたい

今後の取り組み

日本では障がい者と関わったことがないという割合が他の国と比べて51.9%と高く、関わった経験がない事から障がいある方に対して不安を抱く事も多い。今後はさらに街中でアートを通して対話が起る仕組みづくりや、今年度は期間が短かったために深掘りできなかったとのご意見もあったので、期間の延長や常設展を備えてコミュニケーションをもっとできるようにしていきたい。参加者数は2倍を目標。また若い世代ではなく、一般の方のアートサポート障がいある方の場づくりを行っていく。またアートだけではなく、eスポーツ、3×3バスケット、企業がもっと参加できるような提案をしていく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある